

**平成30年度研究拠点形成事業  
(B. アジア・アフリカ学術基盤形成型) 実施計画書**

**1. 拠点機関**

日本側拠点機関：	東京外国語大学
(タンザニア)側拠点機関：	ダルエスサラーム大学
(南アフリカ)側拠点機関：	ヴェンダ大学
(ウガンダ)側拠点機関：	マケレレ大学
(ザンビア)側拠点機関：	ザンビア大学
(ボツワナ)側拠点機関：	ボツワナ大学

**2. 研究交流課題名**

(和文)：アフリカにおける言語多様性とダイナミズムに迫るアフリカ諸語研究ネットワークの構築

(英文)：Establishment of the research network for exploring the linguistic diversity and linguistic dynamism in Africa

研究交流課題に係るウェブサイト：平成30年度中に開設予定

**3. 採択期間**

平成30年4月1日 ～ 平成33年3月31日

(1年度目)

**4. 実施体制**

**日本側実施組織**

拠点機関：東京外国語大学

実施組織代表者(所属部局・職名・氏名)：学長・立石博高

コーディネーター(所属部局・職名・氏名)：アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授・品川大輔

協力機関：京都産業大学，大阪大学，国際基督教大学，東京女子大学

事務組織：東京外国語大学総務企画部研究協力課

**相手国側実施組織** (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名：タンザニア

拠点機関：(英文) University of Dar es Salaam

(和文) ダルエスサラーム大学

コーディネーター(所属部局・職名・氏名)：(英文) Department of Foreign Languages and Linguistics, College of Humanities, Senior Lecturer, Gastor MAPUNDA

協力機関：(英文) なし

(和文) なし

(2) 国名：南アフリカ

拠点機関：(英文) University of Venda

(和文) ヴェンダ大学

コーディネーター(所属部局・職名・氏名)：(英文) M.E.R. Mathivha Centre for African Languages, Arts & Culture, Senior Lecturer, Crous HLUNGWANI

協力機関：(英文) なし

(和文) なし

(3) 国名：ウガンダ

拠点機関：(英文) University of Makerere

(和文) マケレレ大学

コーディネーター(所属部局・職名・氏名)：(英文) College of Humanities and Social Sciences, Lecturer, Celestino ORIIKIRIZA

協力機関：(英文) なし

(和文) なし

(4) 国名：ザンビア

拠点機関：(英文) University of Zambia

(和文) ザンビア大学

コーディネーター(所属部局・職名・氏名)：(英文) Department of Literature and Languages, School of Humanities and Social Sciences, Director of Confucius Institute, Sande NGALANDE

協力機関：(英文) なし

(和文) なし

(5) 国名：ボツワナ

拠点機関：(英文) University of Botswana

(和文) ボツワナ大学

コーディネーター(所属部局・職名・氏名)：(英文) Department of African Languages and Literature, Faculty of Humanities, Associate Professor, Ethelbert Emmanuel KARI

協力機関：(英文) なし

(和文) なし

## 5. 全期間を通じた研究交流目標

本研究計画は、アフリカ大陸で現在話される2,000を超すとも言われる現地民族語の記述言語学的研究を推進するとともに、日本およびアフリカの若手言語学者の育成をとおして、アフリカが有する文化的資産としての言語多様性を持続可能な形で維持・促進することを

目的とした国際的研究拠点および拠点間ネットワークを構築することを目標とする。

アフリカは、世界の約7,000言語のうちの約30%に相当する言語を抱える多言語大陸である。しかしこの言語多様性は、一部の言語については詳細に研究されといえるとはいえ、多くの民族語について未だ十分な記述研究がなされておらず、学術的にその全貌を把握しているとはいえない。そのような状況においてまず取り組まれなくてはならないのは、言語学的な研究の蓄積が少なく、かつ次世代への継承が危ぶまれる少数民族語を対象にした学術的精度の高い言語記述研究である。にもかかわらず、アフリカ諸国において言語記述を専門的に行う研究機関は少なく、とりわけ現地の記述言語学者の育成が立ち遅れていることは、世界のアフリカ言語学コミュニティ全体が抱えている大きな課題である。このような現状を踏まえ、民族語記述研究に精力的に取り組むタンザニア・ダルエスサラーム大学人文学部外国語・言語学科（UDSM/FFL）および南アフリカ・ヴェンダ大学M. E. R マティバ・アフリカ言語研究センター（UniVen/MCAL）とをアフリカ側拠点とするアフリカ諸語共同研究ネットワークを構築し、この状況に対する画期的な変化をもたらすような貢献をなすことを目指す。

日本側研究拠点の東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（ILCAA）は、本計画のアフリカ側研究拠点において指導的地位にある研究者と現在に至るまで研究パートナーとしての双方向的な協力関係を維持している。ILCAAが培ってきたこのような研究者レベルの交流を機関レベルのネットワークへと発展させるとともに、現在遂行中の教育・研究プログラムを有機的に連関させることで、若手研究者育成と現地への成果還元を志向する世界レベルのアフリカ言語記述研究のための拠点間ネットワークを構築していく。

## 6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

平成30年度から開始

## 7. 平成30年度研究交流目標

### <研究協力体制の構築>

平成30年度に関しては、i) 日本国内およびアフリカ側拠点の全体的な研究連絡体制の強化を図るとともに、ii) とくにタンザニア拠点との研究協力体制の構築および強化に焦点を当てる。それぞれについての具体的な活動計画および目標を以下に示す。

i) については、すでにアフリカ側各拠点代表者と日本側拠点機関代表者との間、また上述のパートナー研究者同士の研究連絡体制はすでに確立されている。そして、すべての日本側各パートナー研究者は、平成30年7月に南アフリカで開催される第7回国際バントゥ諸語会議（7th International Workshop on Bantu Languages, Sintu7）、および同8月にモロッコで開催される第9回世界アフリカ言語学会議（9th World Congress of African Linguistics, WOCAL9）に参加する（本事業経費外）ことから、その機会を利用して、本事業における研究活動内容全体の検討および31年度以降の具体的な計画の立案を行うことで研究体制の強化を図る。

ii) については、以下 8-1 に示すダルエスサラーム大学からの若手研究者招へい（平成30

年 11 月を予定), および 8-2 に示すダルエスサラームでのセミナー開催 (平成 31 年 2 月を予定) をとおして, 機関レベルまた研究者レベルでの共同研究を推進することで研究協力体制の強化を図る.

### <学術的観点>

学術的観点では, とりわけ共同研究 (以下 8-1 参照) を展開していくことで, 事業期間全体の目標である「アフリカにおける現地民族語の記述研究およびアフリカ固有の多言語状況や言語接触に起因する言語変化のダイナミズムを捉えるための言語ドキュメンテーション研究」推進のための足掛かりを構築する.

平成 30 年度においては, とくにウガンダおよびザンビアにおける共同研究活動を展開し, 共同研究に関する全体目標のもとに位置づけられる三つのメインテーマ (8-1 参照) の一つである「十分な研究蓄積のない現地民族語に関する記述言語学的研究」を推進する. ウガンダにおいては, いわゆるガスリー分類 (Guthrie (1967-70) *Comparative Bantu* を基にしたバントゥ諸語の分類コード) における JE10 グループに, ザンビアにおいては M50 グループに属する諸言語のうちの, 言語学的研究資料の乏しい言語を対象とした現地言語調査を, アフリカ側拠点機関との連携のもとに遂行し, 記述資料の収集およびその論文化を遂行する.

また, 以下 8-1 に示すタンザニアからの研究者招へいをおとして, 日本におけるタンザニア諸言語を対象とする調査を行う研究者との間で共同研究討議を行う. これをおとして, タンザニア側研究者の研究成果を発信する方策を検討するとともに, タンザニア国内におけるフィールドワークの成果を基にした共同研究事業の具体的内容を討議する.

### <若手研究者育成>

若手研究者育成については, 以下 8-2 に示す, タンザニア・ダルエスサラーム大学における若手研究者養成セミナーが平成 30 年度の主要な活動となる. 開催は平成 31 年 2 月を予定し, 日本からの参加研究者は 6 名, タンザニア側から参加する若手研究者は 20 名程度を見込んでいる. 具体的な内容は次のとおりである.

- a) 言語ドキュメンテーションにおける理論 (Documentation theories), 手法 (Field methods) そして調査倫理 (Ethics in linguistic documentation) 等の言語ドキュメンテーションの原理や方法論に関する講義 (担当: 品川)
- b) 録音および電子テキストデータの処理に関する実習 (担当: 阿部)
- c) Praat (音声分析ソフト), FLEx (SIL International によるデータ管理・分析ソフト), ELAN (音声・映像データに注釈等を加えるためのソフト) 等のドキュメンテーション研究における国際標準的な位置づけにあるソフトウェアの実習 (担当: 李)

さらには, 期間中にタンザニア・日本双方の若手研究者が自由に研究討議を行うためのワークショップを開催する.

### <その他 (社会貢献や独自の目的等) >

社会貢献としては, 言語学研究のみならず, 日本におけるアフリカ研究一般ないし一般市民に向けたアフリカ理解への貢献を考えている. 具体的には, タンザニアからの若手研

研究者招へいの機会に，日本側拠点機関である東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所において（ないし可能であれば現代アフリカ地域研究センターの協力を得て），本交流事業の意義および成果を踏まえた，アフリカ研究全体に資する研究イベントの開催を検討する。

## 8. 平成30年度研究交流計画状況

### 8-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成30年度	研究終了年度	平成32年度
共同研究課題名	<p>(和文) アフリカにおける言語多様性と多言語状況に迫る言語記述及び言語ドキュメンテーション研究</p> <p>(英文) Descriptive and Documentational Linguistic Approaches to Linguistic Diversity and Multilingual Situations in Africa</p>				
日本側代表者 氏名・所属・職 名・研究者番号	<p>(和文) 品川大輔・東京外国語大学・准教授・1-1</p> <p>(英文) Daisuke Shinagawa, Tokyo University of Foreign Studies, Associate Professor, 1-1</p>				
相手国側代表者 氏名・所属・職 名・研究者番号	<p>(英文)</p> <p>i) Gastor Mapunda, University of Dar es Salaam, Senior Lecturer, 2-1</p> <p>ii) Celestino Oriikiriza, University of Makerere, Lecturer, 4-1</p> <p>iii) Sande Ngalande, University of Zambia, Director of Confucius Institute, 5-1</p>				
30年度の 研究交流活動 計画	<p>本研究交流事業全体の事業目的は、「アフリカにおける現地民族語の記述研究およびアフリカ固有の多言語状況や言語接触に起因する言語変化のダイナミズムを捉えるための言語ドキュメンテーション研究」および「言語多様性を持続可能な形で促進することに寄与するための日本および現地の若手研究者育成」の二本柱である。後者は以下の「セミナー」にかかる事業目的であり、共同研究にかかるのは前者ということになる。</p> <p>具体的には、(1)「十分な研究蓄積のない現地民族語に関する記述言語学的研究」、(2)「言語接触等による言語動態に関する研究」、(3)「地域コミュニティにおける言語状況の変容に関する社会言語学的研究」をメインテーマとし、それぞれ日本側参加研究者のイニシアティブのもとに、アフリカ側拠点機関と共同研究を推進する。</p> <p>平成30年度については、日本側参加研究者の梶がウガンダ大学と、同じく牧野がザンビア大学と連携を結ぶ形で研究活動を行う。両者はともにそれぞれの国でフィールドワークを行うため、滞在中はアフリカ側拠点機関から実質的な調査援助を受ける形になる。また調査前後にも準備ないし報告のために相互に連絡を取り合うが、両者ともにすでにそれぞれの拠点機関代表との間に連絡体制を構築している。派遣期間は、両者とも1か月を予定する。</p> <p>さらに、タンザニア拠点のダルエスサラーム大学から二名の若手研究者を東京外国語大学にて受け入れる(担当:品川)。上述の研究テーマ(1)ないし(3)に関する研究を行う研究者を受け入れ、日本側研究機関において研究セミナーを開催する。この計画を含む相互連絡は、タンザニア拠点代表</p>				

	の Gastor Mapunda 博士との間で常態的に行われている。
30年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	<p>まず共同研究の最初のケースとして、ウガンダおよびザンビアの未記述言語（undecided ないし under-described languages）に関する研究成果が挙げられることが直接的に期待される。さらに、タンザニアからの研究者招へいによって、タンザニア拠点機関であるダルエスサラーム大学（外国語・言語学科）との研究連携強化が図られる。</p> <p>また、ザンビアに派遣する牧野、およびタンザニアから招へいする二名（7日間）の研究者はいずれも若手研究者であり、その点で国際研究交流をとおした若手研究者養成という点での成果も期待される。</p>

8-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「アフリカにおける言語多様性とダイナミズムに迫るアフリカ諸語研究ネットワークの構築」
	(英文) JSPS Core-to-Core Program “Establishment of the research network for exploring the linguistic diversity and linguistic dynamism in Africa”
開催期間	平成31年2月24日 ～ 平成31年3月1日 (6日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) タンザニア, ダルエスサラーム, ダルエスサラーム大学
	(英文) Tanzania, Dar es Salaam, University of Dar es Salaam
日本側開催責任者 氏名・所属・職名・研究者番号	(和文) 品川大輔・東京外国語大学・准教授・1-1
	(英文) Daisuke Shinagawa, Tokyo University of Foreign Studies, Associate Professor, 1-1
相手国側開催責任者 氏名・所属・職名・研究者番号 (※日本以外での開催の場合)	(英文) Gastor Mapunda, University of Dar es Salaam, Senior Lecturer, 2-1

参加者数

派遣先 派遣元		セミナー開催国 (タンザニア)		備考
		A.	B.	
日本	A.	6	36	
	B.	0		
タンザニア	A.	3	18	
	B.	20		
合計 〈人／人日〉	A.	9	54	
	B.	20		

A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)

B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※人／人日は、2／14 (=2人を7日間ずつ計14日間派遣する) のように記載してください。

※日数は、出張期間 (渡航日、帰国日を含めた期間) としてください。これによりがたい場合は、備考欄にその内訳等を記入してください。



<p>セミナー開催の目的</p>	<p>本セミナーは、本事業の二大事業目的のひとつである「言語多様性を持続可能な形で促進することに寄与するための日本および現地の若手研究者育成」に向けた取り組みとして位置づけられる。具体的には、タンザニア拠点機関であるダルエスサラーム大学の博士課程に所属する若手研究者を主たる対象とし、フィールドワークにおけるデータ収集の方法およびソフトウェアを駆使した言語ドキュメンテーションの技術を教授することを目的とする。実施にあたっては、日本側拠点機関の言語学系基幹研究プロジェクト「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築 (LingDy3)」との共催の形をとる予定である。</p>	
<p>期待される成果</p>	<p>直接的に期待される成果は、ダルエスサラーム大学の博士課程を中心としたタンザニアの若手研究者の、言語記述に関する技術的能力の向上が挙げられる。それを土台に、データ分析に関する能力をも連動的に向上させることを目指し、もってタンザニア国内の言語学研究の水準の発展が期待される。また、日本側の若手研究者をも参画させることで、彼らの研究面での国際経験の向上を促す意義も期待される。</p>	
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>セミナー運営にあたっては、実施統括をコーディネーターの品川が、また受入拠点側の責任者を <b>Gastor Mapunda</b> 博士が担う。カリキュラム面では、日本側参加研究者の李と阿部が立案および授業担当の中核を担う。その際、日本側中心拠点である <b>ILCAA</b> が言語学分野の基幹研究として推進している「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築 (Linguistic Dynamics Science 3, 以下 <b>LingDy3</b>)」のノウハウを活用する。</p>	
<p>開催経費 分担内容</p>	<p>日本側</p>	<p>内容：日本側参加者旅費，言語ドキュメンテーションのための機材（録音機器等），謝金</p>
	<p>(タンザニア) 側</p>	<p>内容：会場提供，PC・プロジェクタ等の会場備え付け機器の提供</p>

### 8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

共同研究、セミナー以外の交流（日本国内の交流を含む）計画を記入してください。

所属・職名 派遣者氏名・研究者番号	派遣時期 (●月・●日間)	訪問先・内容
京都産業大学・教授・梶茂樹・1-2	11月・2日間	訪問先：東京外国語大学 内容：研究打合せ，調査報告
大阪大学・教授・米田信子・1-3	11月・2日間	訪問先：東京外国語大学 内容：研究打合せ
李勝勲・准教授・国際基督教大学・1-4	11月・2日間	訪問先：東京外国語大学 内容：研究打合せ
阿部優子・准教授・東京女子大学・1-5	11月・2日間	訪問先：東京外国語大学 内容：研究打合せ
大阪大学・学振特別研究員・古本真・1-6	11月・2日間	訪問先：東京外国語大学 内容：研究打合せ
大阪大学・学振特別研究員・牧野友香・1-9	11月・2日間	訪問先：東京外国語大学 内容：研究打合せ，調査報告
京都産業大学・教授・梶茂樹・1-2	7月・1日間	訪問先：ケープタウン大学（南アフリカ） 内容：研究打合せ
大阪大学・教授・米田信子・1-3	7月・1日間	訪問先：ケープタウン大学（南アフリカ） 内容：研究打合せ
国際基督教大学・准教授・李勝勲・1-4	7月・1日間	訪問先：ケープタウン大学（南アフリカ） 内容：研究打合せ
東京女子大学・准教授・阿部優子・1-5	7月・1日間	訪問先：ケープタウン大学（南アフリカ） 内容：研究打合せ
大阪大学・学振特別研究員・古本真・1-6	7月・1日間	訪問先：ケープタウン大学（南アフリカ） 内容：研究打合せ
大阪大学・学振特別研究員・牧野友香・1-9	7月・1日間	訪問先：ケープタウン大学（南アフリカ） 内容：研究打合せ
東京外国語大学・准教授・品川大輔・1-1	7月・1日間	訪問先：ケープタウン大学（南アフリカ） 内容：研究打合せ
ヴェンダ大学・上級講師・Crous HLUNGWANI・3-1	7月・1日間	訪問先：ケープタウン大学（南アフリカ） 内容：研究打合せ

※1名につき1行で記入してください。

## 9. 平成30年度研究交流計画総人数・人日数

### 9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 <人/人日>	タンザニア <人/人日>	南アフリカ <人/人日>	ウガンダ <人/人日>	ザンビア <人/人日>	ボツワナ <人/人日>	モロッコ（第三 国） <人/人日>	合計 <人/人日>
日本 <人/人日>		6 / 36 ( / )	7 / 12 ( / )	1 / 30 ( / )	1 / 30 ( / )	/ ( / )	/ ( 4 / 4 )	15 / 108 ( 4 / 4 )
タンザニア <人/人日>	2 / # ( / )		/ ( / )	/ ( / )	/ ( / )	/ ( / )	/ ( / )	2 / 14 ( 0 / 0 )
南アフリカ <人/人日>	1 / 1 ( / )	/ ( / )		/ ( / )	/ ( / )	/ ( / )	/ ( / )	1 / 1 ( 0 / 0 )
ウガンダ <人/人日>	/ ( / )	/ ( / )	/ ( / )		/ ( / )	/ ( / )	/ ( / )	0 / 0 ( 0 / 0 )
ザンビア <人/人日>	/ ( / )	/ ( / )	/ ( / )	/ ( / )		/ ( / )	/ ( / )	0 / 0 ( 0 / 0 )
ボツワナ <人/人日>	1 / 1 ( / )	/ ( / )	/ ( / )	/ ( / )	/ ( / )		/ ( 1 / 1 )	1 / 1 ( 1 / 1 )
モロッコ （第三国） <人/人日>	/ ( / )	/ ( / )	/ ( / )	/ ( / )	/ ( / )	/ ( / )		0 / 0 ( 0 / 0 )
合計 <人/人日>	4 / # ( / )	6 / 36 ( 0 / 0 )	7 / 12 ( / )	1 / 30 ( / )	1 / 30 ( / )	0 / 0 ( / )	0 / 0 ( 5 / 5 )	19 / 124 ( 5 / 5 )

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。（なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。）

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

※相手国以外の国へ派遣する場合、国名に続けて（第三国）と記入してください。

### 9-2 国内での交流計画

	交流予定人数 <人/人日>
合計	7 / 14 ( / )

## 10. 平成30年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	200,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	5,400,000	
	謝金	200,000	
	備品・消耗品 購入費	252,000	
	その他の経費	300,000	
	不課税取引・ 非課税取引に 係る消費税	448,000	
	計	6,800,000	研究交流経費配分額以内であること。
業務委託手数料		680,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合 計		7,480,000	